



第 8 回

「モノづくり応援隊 in 大田区」経営と IT の両面に精通した IT コーディネータが、大田区の中小製造業をサポート

文・奥山 睦

IT コーディネータの役割とは？

IT コーディネータ(以下 ITC)とは、「経営と IT の両面に精通し、企業経営に最適な IT 投資を支援・推進することができるプロフェッショナル」のことだ。1999 年 6 月、通商産業省(現経済産業省)産業構造審議会情報産業部会・情報化人材対策小委員会の中間報告で「戦略的情報化投資による経済再生を支える人材育成」が提言されたが、その内容は、経済再生を目的とした IT 系の人材育成を推進させるというものだった。特に日本の産業構造の中核をなす中小・中堅企業における情報化対策の遅れが課題とされた。経営者の IT の知識や認識不足だけでなく、その経営者を IT の視点から支援できる人材そのものが不足している。つまり、必要なのは IT 技術だけではなく、経営的な観点も持ち合わせて戦略的に IT 化を押し進められる人材だ。その実現を図るための専門家が、経営と IT の両面に精通した ITC という位置づけなのである。

そして、[NPO 法人 IT コーディネータ協会](#)が、経済産業省の推進資格である、ITC の育成・認定・普及・啓蒙活動を行なっている。

「モノづくり応援隊 in 大田区」設立経緯

2005 年 10 月 21 日・22 日、ITC の全国大会である、「ITC カンファレンス 2005」が大田区産業プラザで開催された。入場者は両日で約 1,600 人。そのカンファレンス開催をきっかけに、2005 年 8 月に 15 名の公募による ITC によって、立ち上げたのが「モノづくり応援隊 in 大田区」だ。大田区の製造業を IT 活用によって経営革新を図れるようにサポートしていこうという取り組

みであり、昨年のカンファレンスでその活動内容が報告され、現在も継続してサポートを行なっている。

「大田区内のものづくりに携わっている中小企業の 120~130 社に電話やメールでご連絡をしたと思います。そのうち訪問させていただいたのが 34 社です」とITコーディネータ協会・事務局の前田幸穂氏は語る。実際に訪問できたのは、連絡した企業のわずか 1/4 である。想像以上に大田区の中小企業に IT コーディネータの知名度が低いことや、IT そのものに対する拒絶反応が強いことも実感したという。



ITコーディネータ協会 前田幸穂氏

「ご連絡させていただいた経営者の方々のほとんどは、『IT』という言葉で、ベンダーがパソコンを売りにくるのではと警戒されたようで、まずは拒絶されましたね。いきなり電話を切られたりしたこともありました。

IT、IT と騒がれた割には、自分たちの経営にはたいして役に立ってこなかった、という思いもあるのかもしれませんが。ですから、まずは『経営をみんなで見直しましょう』とご提案させていただきました。最初は半信半疑だったようですが、2回3回と面談させていただくうちに、『それだったら一緒にやってみよう』というふうになりました。『IT コーディネータ』という名前からくるイメージが、ひとり歩きしているのかもしれませんがね」

IT バブル期の 1997 年前後に IT が必要だから導入しましょう、とベンダーに言われるがままに必要な高価な機器を揃え、成果が出ないまま宝の持ち腐れになってしまったという中小

企業の例も少なくない。だからこそ、この地域に根付いてしまった悪しき IT のイメージを払拭するところからスタートしたのである。まさに草の根活動である。

大田区は日本の中小企業のモデルケース

なぜ、ITC が大田区の中小企業をターゲットにしたのだろうか。

「当初からカンファレンスに向けた一時的なプロジェクトではなく、1 年後、2 年後を見据えた経営計画の提案を目指していました。日本のものづくりの拠点である大田区中小企業の経営者の皆様に信頼され、その経営改善に向けてさまざまな区内の団体と一緒に息の長い活動にしていきたいと思っています」

中小企業が集積する代表的な町である大田区。優れた技術や独自の経営ポリシーを持ち、とても魅力的な経営者が多い一方、閉鎖的で、昔ながらの職人氣質の経営者も多い。2 代目、3 代目は、そこをどう破って事業継承し発展させるか、という新たな課題も抱えている。そういう課題が山積しているからこそ、大田区でのプロジェクトに意味があるのだろう。

「今年のカンファレンスでは、大田区の中小企業を支援している方たちに広く声をかけ、後継者問題など、若い方たちが興味を持つテーマでワークショップをやろうと思っています。2 代目が継いだ中小企業の多くは、技術者が高齢化していて、その後継問題に頭を悩ませています。日本中のどこの中小企業にとっても同じ問題なんです」

カンファレンスは今年も大田区産業プラザで 10 月 13 日・14 日の両日、開催される。14 日には昨年の「モノづくり応援隊 in 大田区」に参加した企業が、より発展していくためにはどうしたらよいかを深耕するワークショップも企画しているという。

今、大田区で重要な課題のひとつとなっているのが、後継者問題だ。今まで核となっていた経営者の高齢化、そして将来性という理由から、2 代目がいても後を継がないというケースが表面化しつつある。そこに少子化問題も拍車をかける。売り手市場のために、地元の都立工業高

等専門学校生徒が地元の中小企業に就職をせず、大企業に流れていくというのが現実だ。だからこそ、中小企業とさまざまな区内の支援団体が連携しながら、若年層のキャリア教育にも力を入れていかなければならない。

「ITCとしてもそういうことを認識した上でやっていかなければいけないし、ワークショップで関係者が一同に集まって、真剣にこの地域のものづくりをどうしていくのかという議論をし、ひとつでもヒントを得られる機会になれば、と思っています。ITCには*ファシリテータという能力も必要です。今回はITCがそのファシリテータ能力を試されるワークショップにもなるでしょう」

*ファシリテータ(facilitator)

直訳すると、簡単にすること、困難でなくすること。一般的にはプロジェクトなどにおいて、会議運営をサポートする専門家のことをいう。ファシリテータには「話す」、「聞く(聴く)」、「解説(説明)する」、「質問する」、「要約する」などのコミュニケーションスキルが基本的なスキルとして必要とされる。また議事をうまく進行するためには、相手に上手く話をさせるためのうなづきなどのノンバーバル(非言語)コミュニケーション能力や、合意形成などを促進させるコーディネーション(調整)能力も必要とされる。

IT 推進アドバイザー派遣制度とは？

では、実際に中小企業がITCにサポートをしてもらいたいという場合は、どういう制度があり、どこに申し込めばよいのだろうか。

『IT 推進アドバイザー派遣事業』というものがあります。1つの企業につき、45,000 円の約 2/3 の補助金がつくので、受益者は1回7時間目安でアドバイザーひとりにつき、15,000 円の負担になります。この7時間は分割ではなく丸1日通しで1回としてカウントします。

希望により複数回の派遣も可能です。

中小企業基盤整備機構と連携して行なっている事業なので、そちらに申し込んでいただくか、直接、IT コーディネータ協会に申し込んでいただいても構いません。

全国には 6,500 人の ITC がいます。そのうちこの制度の実働部隊が1,000 人以上いて、1人が年間 10 件行なえば、1 万件になるし、100 件やれば 10 万件になる。そういうダイナミックな運動にしていく必要がありますね」

忙しくて経営改善を考える余裕がない、自分の会社の中身を話したくない。そんな中小企業が多いという。それによって、どこかでチャンスをなくしていたり、問題を起こしていたりする場合もある。そんな状況を見ていると、たまらなく歯がゆいと前田氏はいう。

「ITC は、そんな経営者に対して経営改善の必要性に「気づいて」頂く必要があります。だから、いわゆるITありき、という話ではなく、経営者の声に耳を傾け、人間的なものまで理解した上で、一緒に経営課題を解決していきましょうと提示する必要があるんです」

どんなにツールが発達しても、人を動かすのは、やはり人なのである。

「モノづくり応援隊 in 大田区」におけるサポート事例



大洋機械株式会社

当初は社内業務の仕組みをどう構築するべきかを試行錯誤している段階だった。ITC の継続したサポートによって、受発注・工程・外注などの管理システムを構築した。



有限会社安久工機

ホームページのリニューアルを考えていたときに、アクセサビリティと検索キーワードについてアドバイスをした。その結果ヒット率も高くなり、新規の受注にもつながった。その後、検索連動型広告やSEO対策を実行して、毎月新規の発注がくるようになった。



有限会社大森精工

2代目社長として意欲にあふれていたため、経営戦略の策定から、新規製品の販売戦略、既製品の生産管理プロセスの改革までサポートした。現在は、新規製品の新規販路の販売準備とASP型受発注システムの導入段階に入っている。



フィーサ株式会社

新しい製品を製造販売する会社を前社長・斎藤敏男氏が設立したときに、ITCが全面的にIT導入と経営面をサポートし、現在も継続して行なっている。



有限会社松浦製作所

2代目として事業継承したばかりの時期に出会った。「これから何から手を付けようか」と思案していた矢先だったので、経営課題の整理を行ない、今後の経営戦略などをアドバイスした。



ティヴィバルブ株式会社

経営課題をヒアリングし、アドバイスをした結果、社内に経営改革チームができあがり、1年間取り組んでみて、成果を出すように試行中である。

著者・奥山 睦プロフィール



- 出版物、Web サイトの企画制作を主とする株式会社ウイル 代表取締役。
- 大田女性企業家ネットワーク「TES」の有志で作った IT コンサルタント会社・株式会社イーテスの設立メンバー。

- (独)中小企業基盤整備機構経営支援アドバイザー、(財)社会経済生産性本部認定キャリア・コンサルタント。
- 2004年、長年の区政発展の寄与により大田区から「特別功労者」として表彰された。
- 著書に「メイド・イン・大田区」(サイビズ)、「在宅ワークハンドブック」(21世紀職業財団)、「SOHO受発注トラブル事例集」(社会経済生産性本部)等。

■「大田区スタイル」記事一覧

- 第1回 第3セクターの失敗から民連携のIT化支援ビジネスへ
- 第2回 出前型IT講習とは？
- 第3回 大田区製造業者の横顔(1)
 - 事例1 株式会社サヤカ～IT導入で情報の共有化を図り、風通しのよい組織を作る
 - 事例2 日進精機株式会社～大田区のDNAを世界に広げる超精密金型加工企業
- 第4回 タイに日本初の自治体支援による海外集合工場「オオタ・テクノ・パーク」完成！
- 第5回 大田区製造業者の横顔(2) 二代目経営者たちが語る次世代経営手法
- 第6回 「優れた機械工業の技術の集積」を象徴する「大田ブランド」がスタート！
- 第7回 大田区製造業所の横顔(3)
 - 事例1 株式会社大橋製作所～情報を整理し精査することによって目標を達成し、人を育てる
 - 事例2 株式会社アイオイ・システム～コンピュータシステムを駆使して発想し続けるメーカー
- 第8回 「モノづくり応援隊 in 大田区」経営とITの両面に精通したITコーディネータが、大田区の中小製造業をサポート
- 第9回 大田区製造業者の横顔(4)
 - 事例1 情報漏洩防止、プライバシー保護のための最先端製品を開発 株式会社SKRテクノロ
 - 事例2 製造業のイメージを変える「ものづくりニューウェーブ」の旗手 株式会社マテリアル
- 第10回 中小企業の「連携」をキーワードにした施策活用 「オオタコレクションネットワーク」
- 第11回 「空」に夢を馳せる産官学連携を担うNPO「大田ビジネス創造協議会」
- 第12回 中学生の職場体験を地域ぐるみでサポート 「大田区の中学生職場体験を支援する会」